

特別講演会

ゲオルク・エッカート国際教科書研究所所長

エックハルト・フックス氏(教育史)

- 講師: エックハルト・フックス氏(ゲオルク・エッカート国際教科書研究所所長)
- 演題: The Transnational in the History of Education
- 日時: 2024年9月30日(月)17:00~19:00
- 会場: 早稲田大学早稲田キャンパス 14号館406教室(オンライン同時配信)
- 使用言語: 英語
- 対象: 学生、院生、一般
- 参加費: 無料
- 交通、キャンパスマップ: <https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>
- 主催: 教育史学会
- 問い合わせ先: 早稲田大学教育・総合科学学術院 新保敦子研究室
- 申し込み: 9月25日(水曜)まで、kobayashiatsukozemi2017@gmail.com

要旨

欧州における二国間および多国間の教科書イニシアティブは現在、欧州におけるナショナリズム、外国人嫌悪、暴力の英雄化の台頭と、それらが教育に及ぼす影響への対応という課題に直面している。ウクライナに対するロシア連邦の侵略戦争は、歴史修正主義的な議論によって侵略者によって正当化されており、権威主義的な社会概念と民主主義的な社会概念の間の競争における歴史の重要性を特に明確にしている。ヨーロッパの多くの国々では、政治的目的のために歴史教育が道具化され、歴史上の出来事がそれぞれの政治的利益に従って再記述され、再解釈されている。

このような背景を踏まえ、本講演では、過去1世紀における二国間・多国間の教科書改訂イニシアティブの過去・現在・未来を全体的に考察し、ヨーロッパの文脈における主なアクター、その成果、そして直面する課題に光を当てることを試みる。教育史へ

のトランスナショナルなアプローチについて紹介した後、二国間・多国間の教科書活動の歴史をケーススタディとして取り上げる。さらに 20 世紀初頭からの概観を述べ、1989/90 年以降の最近の活動や成果を論じ、過去 20 年間の主な傾向を分析する。最後に、教科書改訂と歴史和解の分野における国境を越えた交流と協力の今後の課題について論じる。

エックハルト・フックス氏略歴

歴史家として、ベルリン・歴史委員会、ベルリン自由大学のジョン・F・ケネディ研究所、ワシントンのドイツ史研究所にて働く。マンハイム大学教育学部助教をへて、ゲオルク・エックハルト国際教科書研究所((Georg Eckert Institute for International Textbook Research=GEI)研究主任(2007~2009)、同副所長(2009~2015)、所長(2015~)。また、国際教育史学会(ISCHE)第12代会長(2012~2015)として活躍し、教育史学会海外特別会員(2018~2024)としても教育史学会の国際化に貢献してきた。

主要な著作に、*Textbooks and War: Historical and Multinational Perspectives* (2018)、*The Transnational in the History of Education: Concepts and Perspectives (Global Histories of Education)* (2019) などがある。なお、フックス氏の教科書研究については、「様々な状況におかれた教科書:教科書研究再訪」(エックハルト・フックス著、山崎洋子・宮本健市郎訳、『日本の教育史学』63、2020)に紹介がある。